

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	大学と現代社会 (University and Modern Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	大学の機能と学生生活の過去・現在・未来		
担当者名 (Instructor)	谷村 英洋(TANIMURA HIDEHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)		言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	2011年度以前1年次入学者対象科目 総合A(立教科目・大学)		

授業の目標(Course Objectives)

個々の学生が大学観を広げ、それをもとに自分自身の学生生活について省察することを目的とします。到達目標は次の通りです。

- ① 大学教育が置かれた過去および現在の状況を理解し、それに対する意見を述べることができる。
- ② 大学教育と自身のこれまでの関わり方およびこれからの関わり方について、考えを述べるができる。

The aim of the course is for each student to broaden their view of universities and reflect on their own student life.

The objectives are as follows:

- 1) Students will understand the past and current situation of university education and become able to express opinions on the topic.
- 2) Students will become able to express their thoughts about how they have related to university education in the past and how they will relate to it in the future.

授業の内容(Course Contents)

教育機能と学生生活を中心に、大学の歴史と現状、およびそれらの背後にある／あった社会の状況について学習します。またその過程で、履修者が自身の学生生活について省察する機会を適宜設けます。

授業の方法については次の通りです。

- ① 授業は講義、映像資料の視聴、グループワーク、ディスカッション等によって構成します。
- ② 授業参加者の対話(ともに話し、聴き、読み、書く)を重視します。
- ③ 履修者数を考慮の上、グループ発表の機会を設けます。

Students will learn about the history and current situation of universities, and the social situation behind them, focusing on educational functions and student life. In the process, students will have an opportunity to reflect on their own campus life as appropriate.

The method of the course will be as follows:

- 1) Classes will be composed of lectures, video viewing, group work, and discussions, etc.
- 2) We will emphasize dialog among class participants (talking, listening, reading, and writing).
- 3) We will consider the number of students, and if possible, create opportunities for group presentations.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 大学と学生生活の誕生
3. 日本の大学制度の成立と略史
4. 大学教育・学生生活のレリバンス
5. グループ発表課題の説明とグループワーク
6. 大学の教育・学習の動向 (1)学習理論の観点から
7. 大学の教育・学習の動向 (2)メディア・情報技術の観点から
8. 大学の教育・学習の動向 (3)教育内容の観点から
9. 大学教育の費用とその負担のありかた
10. 大学と研究
11. 大学のガバナンス
12. 学生発表
13. 学生発表
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

リーディングアサインメント、小レポート課題、グループ発表準備等に取り組む。

「その他」の欄もよく読んで履修を検討してください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/各回の授業内課題(グループ発表含む)(50%)

グループ発表について:グループでリサーチクエスチョンを設定し発表とディスカッションを企画・実践する。履修者数が少なければ個人発表とし、多ければ代替課題を検討する。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. チャールズ・ホーマー・ハスキンス、2009、『大学の起源』、八坂書房 (ISBN:9784896949476)
 2. 吉見俊哉、2011、『大学とは何か』、岩波書店 (ISBN:9784004313182)
 3. 寺崎昌男、2020、『日本近代大学史』、東京大学出版会 (ISBN:9784130513494)
 4. 潮木守一、1986、『キャンパスの生態誌—大学とは何だろう』、中央公論社 (ISBN:9784121008220)
 5. 古川安、2018、『科学の社会史—ルネサンスから 20 世紀まで』、筑摩書房 (ISBN:9784480098832)
 6. 矢野真和・濱中淳子・小川和孝、2016、『教育劣位社会—教育費をめぐる世論の社会学』、岩波書店 (ISBN:9784000611695)
 7. 上山隆大ほか、2013、『シリーズ大学 3 大学とコスト—誰がどう支えるのか』、岩波書店 (ISBN:9784000286138)
- 佐藤靖『科学技術の現代史—システム、リスク、イノベーション』中央公論新社、2019、9784121025470
- ※その他の文献は授業中に紹介します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

通常の講義の合間にも、適宜グループディスカッションを行います。

グループ発表は、担当教員が編成したグループに分かれて進めてもらいます。一人ひとりの積極的・協力的な参加を期待します。

注意事項 (Notice)